

に各学校やっってるからと、各学校やってることもまちまちですよ。

それをやはりきちんと教育委員会が、海に関する教育、これは海洋教育という言葉で国も打ち出しています。これは、市長にも教育長にも資料を朝渡しました。ぜひ、それもよく読んでください。これ、教育長は知ってあると思います。市長は初めて見たという、朝おっしゃいましたから、よく読んでくださいよ。そうしたら、海がいかにか大事かと、それも対馬にとっては、海が全てを生み出すもとですよということを分かっているわけですからね。

そしたら子どもたちに、対馬なりの海を大事にする、海で働こうと、海の産物を加工しようと、海の産物を販売しようと、そういう気概を持った子どもたちを育てていただきたいと、それを私はお願いをしているんですよ。通り一遍の表面の総合教育で学習やっってるからと、それで終わってもらったら、対馬市の教育委員会の存在価値はないですよ。対馬市の教育委員会、対馬独自のことを打ち出したなということをぜひ中島教育長の時代にやってくださいよ。中島教育長も海のそばで育ったじゃないですか。海が大事かということはよく御存じでしょう。それをぜひお願いをしておきたいと思います。

そういうことで、ちょっと時間不十分だったんですけど、私、そういう思いを込めて、今日は質問をさせていただきました。お願いします。

○議長（初村 久藏君） 時間ですけど、簡単に。教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 先ほど申しましたのは、総合的な学習の時間についてのことを説明いたしました。小学校3年生、4年生以上は社会科の学習をしますけども、対馬市の子どもたちはこういう本を持っています。この中に、対馬の漁業等もありますので、全て社会科の中で学習しております。ですから、抜けがあるというわけではございませんので、そこは確認をさせてください。

以上です。

○議員（10番 小島 徳重君） だから、項目に1つ上げましょうよ。それを言っている。

以上です。

○議長（初村 久藏君） これで、小島徳重君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を11時5分からといたします。

午前10時52分休憩

午前11時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。11番、黒田昭雄君。

○議員（１１番 黒田 昭雄君） 皆さん、こんにちは。公明の黒田昭雄でございます。

前、創政という会派におりましたけども、核の最終処分場の件で正反対の意見になりまして、協議離婚ということで１人で頑張っております。一緒にやっていたときはいろいろ勉強もさせていただきまして、この場をお借りしまして御礼を申し上げたいと思います。

それから過日、もう相当前になりますけども、政治倫理審査会におきまして、私も１３人の中の１人でございますが、条例違反ということで断を下されましたことに関しまして、私は心から反省をしております、市民の皆様には本当に申し訳ない、この場をお借りましてお詫びを申し上げます。ただ、その後の規制法につきましては、その議決において、何ら影響なく私はしております、多分賛成した１０人の皆さんは、何の影響もなく、私は議決をしたんであろうと信じております。

そもそもこの倫理条例、あえて厳しい規制を課した条例を自ら、私たちがつくった条例でありまして、普通、罰則というのは、違反をしたら罰則というわけなんですけども、違反のおそれを抱かせること自体が罰則という厳しい規制を課しております、本当に自分の穴を掘ってそこに自ら穴にはまったような、本当に恥ずかしい思いをいたしております。

今後は、この議場において議案審査を行うであろうことに対しましては、公費で支給いただいております政務活動費というのがありますので、これをもって視察旅行もいたしますし、さらに襟を正して頑張りたいと思います。

改めて、申し訳ございませんでした。

それでは通告に従いまして、３点質問をさせていただきます。

まず、１点目についてですが、交通安全対策についてでございます。

市営住宅雑知団地の建設に伴い交通量の増加が予想され、事故を心配している地元住民が少なくありません。どのような対策を考えているのか伺いたいと思います。

２点目が、対馬市公共施設等個別施設計画についてでございます。

この個別施設計画の冒頭にこういう一節があるんですが、この個別施設計画は、総合管理計画で掲げた基本的な方針の実現を目的としてつくりましたよとあるわけなんですけど、平成２９年（２０１７年）、今からでいうと７年前、この総合管理計画というのが策定されたわけなんですけども、基本的な方針、初めて聞いたときに、これから公共施設も大幅に減らしていくんだと、また、大なたを振るっていくんだと感じて、我々議員も、市民要望に固執してばかりではいけないなということを感じながら聞いたわけでありましてけれども、いざ、個別施設計画になりますと、この基本的な総合管理計画の方針が変更したんじゃないかなというぐらいトーンダウン、先送りをした計画になっていると私は感じたんですけども。

旧６町合併で、多くの公共施設等を抱えて、修繕等、市民要望に応え切れない現状なんだから、

私は、残さなければいけない施設というものの早めに見定めて、そこを集中的に見ていったほうが、長期的に見たら、これ、30年計画とかいってますけども、私はこれを早く進めていったほうが、10年後、20年後、そこら辺は、使える施設は充実してって、最適になっていくんだろうと私は考えるわけですけども、本当に進捗が遅いように私は感じております。どうして積極的に進めようとしらないのか、理解ができないところでございます。

現状認識は、どうも市長と違うのかなと感じているところですので、現状認識を伺いたいと思います。

次、3点目、災害対策についてであります。

日本火災学会という学会の調査によりますと、1995年、阪神淡路大震災で誰に助けられたのかという、それを調べたところ、これはもう言わずもがなだと思うんですけども、自力や家族の自助が66.8%、友人や隣の人、通行人から助けられた共助が30.7%、消防長おられますが、救急隊などに助けられた公助がたったの1.7%、自分の命を守るのは自助がいかに大切かというのを知ることができました。

災害対策の初動は、市民お一人お一人です。災害を自分ごととして考えるマイ・タイムラインの作成など、自助が一番大切だとの意識の醸成を図っていくべきだと思いますが、市長の所感を伺いたいと思います。

以上、よろしくお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 黒田議員の質問にお答えいたします。

初めに、市営住宅雞知団地の建設に伴う交通安全対策についてでございますが、市営住宅雞知団地の建設は、7棟60戸を計画し、施工中であります。

議員から質問のあった箇所は、市道大浜子曾線から国道への出入口の交差点であります。現在でも利用している自動車は、朝・夕の混雑時に出入りが難しい状況であることは認識しております。現在は、押しボタン式信号機が設置され、歩行者専用の信号機であるため、自動車には対応しておりません。このため、雞知団地が完成した後は、現在利用している自動車に加え、入居した方の自動車も加わり、さらなる混雑が予想されるところでございます。

この予想される混雑を解消し、スムーズな車の走行及び安全に横断できる交差点にするとともに、交通事故が発生しない防止対策として、現在の押しボタン式信号機から定周期信号機、もしくは感知式信号機に変更していただくよう南警察署に協議いたしましたが、将来的に交通量が増加する予定での変更は困難であるが、住宅が完成し、混雑が確認できれば、再度、交通量調査を行い、検討していくとの回答を頂いておりますので、今後の動向を見極めながら、再度、協議してまいります。

次に、2点目の公共施設等個別施設計画についてでございますが、初めに、公共施設等個別施設計画については、先ほど黒田議員からも説明はありましたが、詳しくちょっと説明をしてみたいと思います。

この計画は近い将来、過去に建設された公共施設等が大量に更新時期を迎える状況において、人口減少、少子化等により、公共施設等の利用需要も変化していくことが見込まれることを考慮し、長期的視点を持って、公共施設等の更新、統廃合、長寿命化などを計画的に行うことにより、時代に即したまちづくりを行っていくことを目的に策定したものでございます。

このようなことで、若干、進捗状況が遅いということではありますが、確かに今現状を見てみますと、進捗が遅いとこれは言われても致し方ないことであろうかというふうに思っております。この個別施設計画は施設ごとの対策実施計画でありまして、その施設分類ごとの方針を定めた総合管理計画を平成29年3月に策定し、その後、5年ごとの見直しを行ったところであります。

市内の現状であります。御承知のとおり、合併前の各町において、町民への便益享受のため整備を進めてきた結果、現在、その多くを耐用年数が経過したものが占めております。この状況において、既に耐用年数を経過した施設については、将来にわたり利用予定がなければ解体、予定があるものは更新または建替え、もしくは集約という対策に整理されます。

先ほどからの計画の進捗状況でございますが、過去に、特別養護老人ホーム及び老人ホームの民間譲渡を行っており、計画で掲げた目標値からすれば、進捗が思わしくないと感じられていることと思います。公共施設のマネジメントとしては、建替え、解体のみならず、指定管理者制度の導入、PPPそしてPFIなどの民間の活用を促す手法もありますが、総じて対象とする資産の状態がよいものでなければ、交渉が進まないという現実がございます。

以上のことを踏まえましても、本市はまだまだ、道路などをはじめとする生活インフラの整備促進のための財源の確保が課題であり、加えて、進行するインフラの老朽化対策費用の捻出も大きな課題として認識しております。

その中、現在まで企業誘致を進める上において少なからず影響を及ぼしてきた、島内のインターネット環境整備にめどが立ち、今後、民間事業者の光回線によるサービス提供が実現することで、疎外要因を排除でき、遊休施設などの利活用が進むことが期待されます。そのため、利活用が可能な財産の洗い出しを進め、企業誘致という観点からも公共施設の利活用を推進し、さらに、有効利用の見込みがある土地に存在する建物の解体については、優先的に取り組んでまいります。

最後に、災害対策についてでございますが、これから出水期に入り、大雨や台風などの災害に対する備えが必要な時期を迎えようとしております。

また、自然災害は、大雨や台風だけではなく、本年1月1日に発災いたしました能登半島地震

などに見られます地震も含まれるわけですが、災害に対しては、いずれも議員の御指摘にありますように、自助が一番大切であるというように、一人一人が日頃から災害に備えての準備や心構えが、命を守ることへの第一の要因につながるのではないかと考えており、将来的には、個人ごとのタイムラインの作成についても検討してまいりたいと考えております。

また、防災の基本と言われております、自助、共助、公助がありますが、共助の一つとして、自主防災組織が上げられます。この自主防災組織は、災害発生時は無論、日頃から地域の皆さんが一緒になって防災活動に取り組むための防災組織であり、そこにお住まいの住民同士が協力し、定期的に活動することで、個人の防災に対する意識の醸成へとつながり、非常時の際の公助の手が届かないときに力を発揮することが期待されております。

現在、自主防災組織の推進に向けて、担当部署が説明会を行っておりますが、要望があれば、地区に出向いて説明会を行いますので、活用していただければと思います。また、対馬市には、現在、約150名の防災士資格を持った方がいらっしゃいますので、今後は、この自助の力を持つ防災士の方と地域との連携を図ることで、自助から共助に結びつくような取組についても検討してまいりたいと考えております。

最後になりますが、6月の市報では大きく紙面を割きまして、災害から命を守るためにという特集を、表紙を含め5ページにわたり掲載しているところであります。ここには、災害の備えに対する情報や先ほど説明させていただきました自主防災組織についての説明などを掲載しておりますので、市民の皆さんも参考にいただければというふうに思います。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 11番、黒田昭雄君。

○議員（11番 黒田 昭雄君） では、1番、3番、2番と進めさせていただきたいと思います。

まず、1番目の交通安全対策については、担当部長の内山部長が（ ）にしてくださっているので、あえてここで質問することもなかったんですけども、市長がおっしゃるように、多分、厳原よりも、あそこが一番交通渋滞場所じゃないかなと思うぐらいです。だから、そういった意味でも、やっぱりこれは議場で言うべきだなと思っていた次第です。

あそこの一応漁協のほうに入るところと上迫さんのところというのが主体であったわけですけども、何で皆さんが心配しているのかといいますと、御存じのように、ベスト電気からパル21ぐらいまで、あそこの国道との出入りが、ちょこちょこ事故があるのは御存じだと思うんですけども。

それでもって雞知団地60世帯、これが入ってくると、これ、今の行政区としてちょっと調べてみたんですけども、下原地区、中が位の端地区、上が一重地区、この地区が入ってくるという60世帯というのは、だからこういった意味でも、地元の人が心配しているわけなんですけども、

それでもって、通学路がそこには絡んでおるわけですので、ここで教育長のほうに、通学路をどうのこうのという最適な話は持ち合わせてもいませんし、多分、教育長のほうも、今、警察を中心にいろんな関係者、また、独自の調査とかそういったのをしているわけでしょうから、答えようもないわけだと思いますので、教育長とここで議論することはしないわけですけども。

この一般質問を通して、住民議論がさらに喚起されて、ただ、お願いしたいことは、関係機関、民生委員の児童委員とか実際に交通安全で立っていらっしゃいますし、あと、小・中・幼稚園の保護者とかいろんな考えられる関係各者、そういう方と協議の場の輪をつくっていただきながら、安全対策を図っていただきたいことをここでお願いをいたしまして、この件についてはもうこれで終わりたいと思います。

3番目の災害対策についてですけども、私が意図していたのは、一番、マイ・タイムラインの作成ということを、これをしてほしいなというのが主眼でしたので、検討してくださるということとを明言されましたので、ありがたく思っております。

私は、実は防災士の端くれでありまして、今までは、ここでこういった公助はたった1.7%、自分の命を役に立たないという、たった1.7%というのは、防災士の勉強で、あらゆることで自助というのは大切なんだなというのは、そこで改めて学ばせていただいたところなんですけども、その防災士の教本というのがここにありまして。

そこで、マイ・タイムラインをつくる上でキーとなるこのハザードマップ、これについての留意点というのがこう書かれてあるわけですけども、ハザードマップを単に住民に配布しただけでは、住民の防災意識の啓発効果が十分に得られないどころか、誤解を与えかねない場合もあるため、ハザードマップを作成する自治体が、住民への周知や適切な理解、利用を促すためのフォローアップを行うことが重要であると。

これは、担当部署はもう十分御存じだと思うんですけども、フォローアップというのは、市民が特定のことを習得できるように身につくまで面倒を見たり、進捗ぶりを一緒に確認することがフォローアップという言葉なんですけども、多分消防のほうで、AEDの講習とか、まさにそういうものだろうと思います。市長のほうも何か要望があればとか、地区の集会とかあれば、進んで担当部署を行かせるという話もお伺いしましたので、この件については十分してくれるんだろうと思います。

タイムラインの作成をする上で、先ほどハザードマップの話をしましたけども、ここにも確かに、タイムラインの作成の手引きみたいなものを書いてはおるんですけども、実際にやっぱりフォローアップという、手取り足取りといったら私もよく理解できないし、これが高齢の方とかになったら、または学校に通っている子どもたちからすれば、やっぱりなかなか理解に苦しむところだと思うんですけども、そこら辺のハザードマップとタイムラインの作成研修というのは、ど

んな研修でもってやっていこうというイメージは持ってらっしゃるんですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まだ私の中では、はっきりとしたイメージは、正直言ってつかみ切れておりません。

ただ、今、担当部署のほうに私のほうから指示しているのが、実は、この今年の1月1日に発災いたしました能登半島地震におけるように、例えば、津波が発生したときにはどこに逃げればいいのかということが、常日頃から頭の中に置いておけるようにしとくことが重要ではないかといったことで、このことについて指示しておりますが、担当部署のほうが消防団とか、また消防署とかそういったところに、ちょっと今協議をしておりますということでございます。

そういったところを兼ね合わせた中で、個人個人のタイムラインが作成できればいいのかなというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 11番、黒田昭雄君。

○議員（11番 黒田 昭雄君） では今後、そういったマイ・タイムラインの講習があることを期待して、質問を終わりたいと思います。

2番目、公共施設等個別施設計画についてなんですけども、これも市長のほうが、進捗が遅いというのはもう認めてくださっておりますし、早めてくださるんだろうと期待をしておりますけれども、そもそも推進委員は、副市長を筆頭に全部長の方々がなっていらっしゃるので、市長の号令次第ではどうでもなる組織でございます。ただ、学校施設みたいに諮問機関に委ねているものは、慎重に進めなければいけないというのは理解はしております。しかし、それ以外の公共施設については、検討との方向性を決められるはずであります。

存続が大多数で、要するに何も変えないという、存続は何も変えないわけではないんですけども、文字の意味合いから何も変えないというのは、市民もやっぱり思うと思うんですけども、パブリックコメントがゼロ件というの、やっぱり市民が反応しなかったというの、変えないわけですから反応するわけではないですね。私はあえて、住民が声を出してくれるようなドラスチック、思い切った案というのを市長のほうが進めていくべきだと思います。

今回の市長選、核の問題があつたにしても、若い漁業者の方とか、やっぱりものすごい支持を得た選挙戦であつたと思います。我々議員としては、あんな若い者が集まってくるのは、非常に羨ましい選挙だなどか思いながらそばで見えてきたわけですけども、やっぱり市民の痛みを伴う改革を行えるというのは、絶大なる市民の信頼があつての、そういう政権しか、しきらない改革でありますので、私は比田勝市長に、ぜひこの最後の4年間、断行していただきたいし、次の後継者は誰になるか分かりませんが、その後継者が引き続きしていかなければいけないわけですけども、比田勝市長がやっぱり道筋をこの4年間には公共施設のあるべき姿を、私は指し示

してほしいなと思っています。

最後にいい返事をというか、さらに前向きな私は言葉を頂きたいと思うんですけども、いい言葉があったらやめたいと思いますが、市長、いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 大変ありがたい御提言だというふうに受け止めております。そういう中で、この個別計画の中でも特に、更新とか長寿命化などについては、ある程度の理解は得やすいものというふうに思っているんですけども、この中で特に、施設の解体等を含めた撤去については、やはり幾ら市長の思いだとしても、市民の皆様の御理解を得る努力をしていかなければならないというふうに、私自身思っておりますので、そのことについては、今後、努力をしてまいりたいと思っております。

そういう中、また、この更新等については、確かに今、市内の集会施設等で雨漏りがかなり多く発生していることは承知しておりまして、計画的に実施をしているところでございます。このような中で特に、今、問題が、老朽化が激しくて雨漏りがひどいというようなところで、尾崎とか加志々、それから、また今後は大山、こういったところの集会施設は建替えをするということで進めている状況でございます。

また、今年の予算にも計上させていただいておりますけども、豆酥地区の住民センターのほうも3階建てでありまして、3階はもう大方雨漏りがひどいということで、なかなかこれは改修もできないということで、ここも建替えの方向で、今、進めさせていただいているところでございます。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 11番、黒田昭雄君。

○議員（11番 黒田 昭雄君） 分かりました。市長が今後、住民の理解を得ながら、今より進捗を早めていただくことを期待しまして、質問を終わりたいと思います。ありがとうございます。

○議長（初村 久藏君） これで、黒田昭雄君の質問が終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩とします。再開は午後1時5分からといたします。

午前11時40分休憩

午後1時05分再開

○副議長（春田 新一君） 再開します。

初村議長から早退の届出があっております。